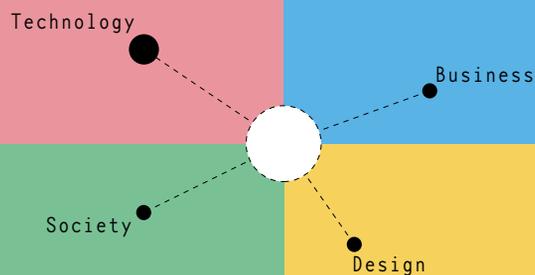


吉村 伸

よしむら・しん：1959年4月生まれ。86年東京大学大学院修士課程修了。東京大学助手を経て93年より(株)インターネットイニシアティブに勤務。97年6月メディアエクスチェンジ(株)を設立、代表取締役社長に就任。著書「インターネット参加の手引き」「インターネットオペレーション」(村井純氏と共同監修)など。



動画はキラーにあらず

ブロードバンドネットワークのアプリケーションという
大方の人がイメージするのは動画配信であろう。しかし、
この動画配信は本当にブロードバンドネットワークのキラー
アプリケーションなのだろうか？

動画配信はインターネット以前からテレビ放送としてあ
ふれかえっている。もちろん従来のテレビ放送とは違う
可能性がある。従来のテレビ放送は電波を用いて行わ
れているため、その電波の周波数割り当てに大きく依存
している。しかし、衛星を使った放送ではデジタル放送
が行われるようになり、多チャンネル化した。CSとBSを
合わせると、まあ、はっきりいって十分すぎるほどのチャ
ンネル数である。ただ地上波のVHF帯の放送に関して
は、12チャンネルという限られたリソースのなかでアナロ
グ放送が行われているため、これをデジタル化して電波
のリソースの有効活用を図りたいという話もある。地上波
のデジタル放送に関しては、デジタル化するために必要
な投資額が莫大であり、現行の地上波二重に対してほ
んとうにそれが見合うものであるのが疑問視されてお
り、すでにCS、BSでデジタル放送が行われている現在
では、不要論が台頭してきている。

しかし、本当の問題はそういうところにあるわけでは
ないと思う。インターネット放送がそれを置き換えるとか
という問題でもない。コンテンツに対する扱いそのもの
に大きな問題があるのではないだろうか。

EPG(Electronic Program Guide)というテレビ放送の
番組表の形態がある。BSデジタル、CSではおなじみの
ものであるが、地上波でもチャンネルの隙間を使って流
されていて、いくつかのテレビやビデオでは活用できる
ようになっている。しかし、これらのEPGの容量には限
りがあってそれほど十分な情報が入っているとはいえな
いし、なによりこれらを扱う機器がテレビチューナーの範
疇であって、自由な情報処理能力があるとはいえない。

インターネットを使ってパソコンで扱えるEPGも存在し
ているが、どうも検索機能などの点で満足できる形態を
提供しているとは感じられない。その上に、所詮雑誌の
おまけで、雑誌の発売後の情報しか提供されていない
場合もある。要は、コンテンツを流す方法が問題なの
ではない。テレビで流される動画コンテンツの大半は、蓄
積される情報という点ではあまり真剣に考えられていな
い。過性コンテンツとして作成されているのではないが

と思われることもある。

そうするとインターネットで能動的に見る動画コンテ
ンツとはどういうものが望まれるのであろうか？ プライ
ベートな動画の流通をここで議論するわけではない。商品
価値のある動画コンテンツの話だ。現在のパッケージメ
ディアを置き換えることに関しては、DVD1枚が数分で
ダウンロードできる安価な超高速家庭用ネットワークが利
用できるようになるまで根本的解決にはならないだろう。
そのうえ、映像コンテンツに金をかける人はそのクオリ
ティーにも十分うさく、HDTVが実用化されている現
在、画像としてのクオリティーを落としてまで有料コンテ
ンツを見るときは考えにくい。プレビュー用が精一杯だろう。
また、パッケージメディア化もされていない映像アーカイ
ブがたくさんあることも事実だが、無編集で鑑賞に堪え
られるものは非常に少ないと思う。

現在、静止画として提供されている情報の中に動画に
なったらいいだろうなあと思うものはたくさんある。しか
し、これらの多くはプレゼンテーション用としての動画像
であり、実際に鍵になるのはオーサリングツールの整備
なのだが、次第に洗練されたものが登場してくるだろう。
現実には実写の動画像よりも、アニメーション技術を使っ
たものが多くなると予想される。

さて、紙面に限りがあるのでここで結ばなければい
けないのだが、最近はこの放送局もウェブによる情報
提供は行っている。これはかなりよくできているものも多
く、情報はわかりやすく活用しやすいことが多い。それ
なのにEPGははなはだお粗末なものばかりだ。すくなく
ともこの間のギャップを埋められないことには、インター
ネットでの放送が仮に実現したところでまともなものには
ならないような気がする。インターネットと電波という流通
手段にこだわりすぎていて、コンテンツへのアクセスを適
切に促す手段としての方策を追求しているとはいえない
気がする。

BSデジタルのデータ放送が、HTML(XMLでもいい
が)ではなく、ほかではまったく使われていないBMLで
あることを残念に感じている人々が多いはずだ。まあ、
放送業界はこの程度のものであるといってしまうとそれ
きりなのだが、不満に思っているのは私も含めてほかな
らぬ利用者(視聴者)であることを忘れていないのではな
いだろうか。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp